

「ご町内のみなさん、日本共産党の〇〇支部です。

安倍政権は、消費税を来年4月から8%に、再来年10月からは10%に上げようとしています。10%になれば13・5兆円の大増税、社会保障の負担増などを含めると20兆円もの負担増になります。消費税増税の実施が近づくとすれば、「増税されたら生きていけない」「営業がなりたたない」と不安や怒りの声が広がっています。

消費税増税にはひとかけらの道理もありません。

第1に、安倍政権の経済政策のもとで、消費税増税の口実がなくなってしまうことです。「社会保障のため」といいながら、生活保護や年金の引き下げ、介護保険の利用料引き上げなど削ることばかりです。「財政再建のため」といいながら、「大手ゼネコン」だけが喜ぶ大型ダムや巨大な道路の建設などにより、いつそのの財政悪化が心配されています。「成長戦略」といいながら、研究開発減税や投資減税など大企業へ大判振る舞いをする一方で、庶民からはお金を吸い上げる、こんな道理のないことはありません。

第2に、消費税はデフレ不況に苦しむ国民生活と日本経済に、大打撃をもたらすもつともひどい政策です。消費税10%になると年収500万円のサラリーマン世帯で、年間12万円近くの負担増です。社会保障の負担増なども合わせると31万円増、まるまる1か月分の給料が吹っ飛ぶことになります。1997年に消費税を5%に引き上げたとき、家計の底がぬけてたちまち大不況におちこみました。あの時には4年間で21万円の所得が増えていましたが、いまは4年間で21万減っています。こんなときに消費税を上げたら、日本の経済も財政も最悪の事態になりかねません。

第3に、消費税増税は、私たち国民が、ただの一度も信任を与えていないということですから。この前の総選挙でも、消費税増税を推進した自民、公明、民主の3党は選挙戦のなかで「だんまり」を決め込んでいました。この3党の党首は、第一声で3人そろって消費税の「し」の字も言わず、討論会でもまったくふれませんでした。それなのに、選挙がすんだら数の力で増税を強行するなど絶対に許せません。

消費税増税ストップの声を広げに広げ、参議院選挙で「増税ノー」の審判を下そうではありませんか。

日本共産党は、6月23日、岡山シンフォニーホールで演説会を開きます。国会で「賃上げこそ暮らしと経済立て直しの道」と追及し安倍首相に財界への賃上げ要請を実現させた笠井あきらさんがお話しします。ぜひ、「ご参加ください」。

この機会に、「暮らしのこと」「経済のこと」「原発や憲法のこと」などわかりやすく報道している「しんぶん赤旗」をぜひ、「ご購読ください」。「静聴ありがとうございます」でした。